

ポスターセッション総括

東京大学 堀井秀之

高知工科大学 中川善典

複数公共事業によるまちづくりプロジェクト・マネジメントにおける日向市デザイン会議の役割と機能評価

辻喜彦, 吉武哲信, 出口近士

- 関連する社会的課題
 - まちづくり、地域再生、地域価値の創造
- 解決策としての社会技術
 - 日向市都市デザイン会議：複数の公共事業を総括するマネジメント
- 研究の内容
 - 事例分析、機能の明確化・モデルと対照

上水道事業に関する行政経営システムの構築 と原価管理システムの開発

刈谷剛, 坂本泰祥, 那須清吾

- 関連する社会的課題
 - 地方自治体の財政難、上水道事業の経営悪化
- 解決策としての社会技術
 - 経営支援技術
- 研究の内容
 - 高知県安芸市の上水道事業を対象
 - 行政経営システムの構築
 - 原価管理システムの開発

企業と生物多様性保全
-その実態把握と改善の試み-
片岡弘

- 関連する社会的課題
 - 生物多様性保全
- 解決策としての社会技術
 - 企業の取組の評価、フィードバック
- 研究の内容
 - 企業の取組の評価
 - ベンチマークフィードバック法の提案
 - 実践、効果の確認

高度科学技術に関する情報伝達のためのウェブを用いた対話フィールド構築の試み

～高レベル放射性廃棄物の事例～

木村浩, 田中博, 勝村聡一郎, 古田一雄

- 関連する社会的課題
 - 高度な科学技術の知識・理解・受容性のギャップ
- 解決策としての社会技術
 - ウェブを用いた対話フィールド
- 研究の内容
 - 高レベル放射性廃棄物処分
 - ウェブを用いた対話フィールドORCATの運用実験
 - 「専門家から市民へ」「市民から専門家へ」情報の流れを分析

国際コンフリクト管理に関する統合的記述モデルを用いた研究～コソヴォ紛争を事例として～ サシャ・ジヴァノヴィッチ, 堀田昌英, 長山大介

- 関連する社会的課題
 - 国際コンフリクト
- 解決策としての社会技術
 - 国際コンフリクト管理支援技術
- 研究の内容
 - 事例分析
 - Cognitive Conflict Evolution model と Integrative Explanatory Model の提案、適用
 - コンフリクトの主要因の解明

生活支援の需給バランスに基づいた広域的な 相互扶助システムの検討手法

谷本圭志, 品川真樹

- 関連する社会的課題
 - － 人口減少・高齢化・過疎化、生活機能の確保
- 解決策としての社会技術
 - － 広域的相互扶助システム
- 研究の内容
 - － 将来における生活支援の需給バランスの把握
 - － 需給調整のための連携を分析する手法開発
 - － 鳥取市三朝町への適用、有効性検討

活動機会の公平性を考慮した
バスダイヤの評価指標
岸野啓一, 喜多秀行

- 関連する社会的課題
 - － 公共交通サービス、活動機会の保障
- 解決策としての社会技術
 - － 活動機会の公平性を考慮した計画評価指標
- 研究の内容
 - － 活動機会の公平性を考慮した計画評価指標の提案
 - － 過疎地域のバスダイヤを設定する手法
 - － 適用事例

地方集落におけるバス運営の自律型移行 に対する受容意識と方略

川端光昭, 松本昌二, 佐野可寸志, 土屋哲

- 関連する社会的課題
 - － 地方集落における交通サービス
- 解決策としての社会技術
 - － 住民が組織を立ち上げて運営するバス
- 研究の内容
 - － 新潟県中越、山古志・太田地域を対象
 - － 自律型への移行に対する需要意識を規定する要因と因果構造の解明
 - － 愛着・交流活性化の基盤となることを訴える重要性

今回のポスター発表論文の 位置づけ

～過去6年間の掲載論文との比較～

整理1：各ポスターが着目する問題解決フェーズ

ポスター発表タイトル		問題分析 や目標設定	問題解決 策や目標 達成策の 考案	解決策や 達成策の 影響予測 や多元的 評価	自ら考案 した対策 の実装
1	複数公共事業によるまちづくりプロジェクト・マネジメントにおける日向市デザイン会議の役割と機能評価			◎	
2	上水道事業に関する行政経営システムの構築と原価管理システムの開発		◎		
3	企業と生物多様性保全 -その実態把握と改善の試み-		◎		◎
4	高度科学技術に関する情報伝達のためのウェブを用いた対話フィールド構築の試み		○	◎	
5	国際コンフリクト管理に関する統合的記述モデルを用いた研究	◎	○		
6	生活支援の需給バランスに基づいた広域的な相互扶助システムの検討手法		◎		
7	活動機会の公平性を考慮したバスダイヤの評価指標		◎		
8	地方集落におけるバス運営の自律型移行に対する受容意識と方略		◎		

整理1(続):各ポスターが着目する問題解決フェーズ

- 問題解決の最も初期フェーズである「**問題分析や目標設定**」に着目したものから、最終フェーズである「**自ら考案した対策の実装**」に着目したものまで、多岐に亘っている。
- なかでも「**自ら考案した対策の実装**」に正面から取り組んだ論文は、過去6年間でわずか4件程度しかなく、この意味で**No3「企業と生物多様性」**は当論文集にとって注目すべきものと言えるかもしれない。
- **No4「Web対話フィールド」**は、自ら開発した解決策を実証実験により評価し、その問題点をかなり具体的に分析している。これは、問題解決策の再設計につながる知見とも解釈できる。こうして問題解決ループを回すことで解決策を改良していくタイプの論文も、当論文集にとって注目すべきものと言えるかもしれない。

整理2:各ポスターが着目する問題解決策の内訳

ポスター発表タイトル		法制度の構築	民間制度や組織間関係の構築	組織内制度の構築	ハード技術の開発と普及	情報技術の開発と普及	教育などによる認識変容促進	情報の非対称性解消	その他
1	複数公共事業によるまちづくりプロジェクト・マネジメントにおける日向市デザイン会議の役割と機能評価		○						○
2	上水道事業に関する行政経営システムの構築と原価管理システムの開発					○			
3	企業と生物多様性保全 -その実態把握と改善の試み-						○		
4	高度科学技術に関する情報伝達のためのウェブを用いた対話フィールド構築の試み					○		○	
5	国際コンフリクト管理に関する統合的記述モデルを用いた研究								○
6	生活支援の需給バランスに基づいた広域的な相互扶助システムの検討手法		○						
7	活動機会の公平性を考慮したバスダイヤの評価指標								○
8	地方集落におけるバス運営の自律型移行に対する受容意識と方略						○		

整理2(続):各ポスターが着目する問題解決策の内訳

- 「民間制度や組織間関係の構築」による問題解決に着目した論文は、当論文集では最頻出であり、過去6年間に40本程度ある。今回のポスターでも2本がこれに該当。
 - No1「日向市デザイン会議」は複数公共事業の関係者間の連携強化を検討。
 - No6「広域扶助システム」は地方部の集落間連携方法の最適化を検討している。
- 「認識変容促進」についても、今回のポスター8本中2本が該当している。
 - No3「企業と生物多様性」は、企業に生物多様性保全のインセンティブを付与させることによる認識変容を目指している。
 - No8「自律型バス運営」は、自律型バス運営に移行するためにどのような住民認識変容が必要かを明らかにした。

整理3：各ポスターが用いている手法

	ポスター発表タイトル	政治過程分析・歴史分析	アクターへの面接調査	アーカイブ等の文献調査	数理分析手法	実証実験	因果関係の全体像の可視化
1	複数公共事業によるまちづくりプロジェクト・マネジメントにおける日向市デザイン会議の役割と機能評価	○		○			
2	上水道事業に関する行政経営システムの構築と原価管理システムの開発		○				
3	企業と生物多様性保全 -その実態把握と改善の試み-			○			
4	高度科学技術に関する情報伝達のためのウェブを用いた対話フィールド構築の試み					○	
5	国際コンフリクト管理に関する統合的記述モデルを用いた研究	○	○	○			○
6	生活支援の需給バランスに基づいた広域的な相互扶助システムの検討手法				○		
7	活動機会の公平性を考慮したバスダイヤの評価指標				○		
8	地方集落におけるバス運営の自律型移行に対する受容意識と方略				○		○

整理3(続):各ポスターが用いている手法

- 「政治過程分析」「面接調査」「文献調査」を用いている**文系的論文**が3本。
- 「数理的分析手法」を用いている**理系的論文**が3本。
- **No5「国際コンフリクト」とNo8「自律型バス運行」**では、「**因果関係の全体像の可視化**」の手法を採用。
 - これは、過去6年の本論文集でも、しばしば用いられている。(計6本)

整理4：各ポスターが前提とする 社会的／個人的価値

ポスター発表タイトル		安全安心	環境保全	安全保障 (食料／エネルギー／ 軍事他)	地域活性化 ／地域の持 続可能性	手段的価値 (最小資源で の最大効果 の実現)	その他
1	複数公共事業によるまちづくりプロジェクト・マネジメントにおける日向市デザイン会議の役割と機能評価				○	○	
2	上水道事業に関する行政経営システムの構築と原価管理システムの開発					○	
3	企業と生物多様性保全 -その実態把握と改善の試み-		○				
4	高度科学技術に関する情報伝達のためのウェブを用いた対話フィールド構築の試み						○
5	国際コンフリクト管理に関する統合的記述モデルを用いた研究			○			
6	生活支援の需給バランスに基づいた広域的な相互扶助システムの検討手法				○	○	
7	活動機会の公平性を考慮したバスダイヤの評価指標				○	○	
8	地方集落におけるバス運営の自律型移行に対する受容意識と方略				○		

整理4(続):各ポスターが前提とする 社会的／個人的価値

- 過去6年間に6本しかなかった「**地域活性化**／**地域の持続可能性**」を扱う論文が4本も含まれているのが大きな特徴。
- 「**安全安心**」の価値を扱う論文の比率が減少し、論文の多様化が進む傾向は、今年も堅持。